

## 平成 26 年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	京都大学大学院医学研究科 健康 医学系専攻健康情報学分野	職名	博士後期課程 3年	助成金額	50万円
氏名	市川 佳世子 印	メール アドレス	Kayoko.osaka@gmail.com		
研究課題（申請書に記入した内容を記入すること。）					
子どもの精神発達に影響する児童虐待の世代間連鎖を断つための保護的因子の解明					
助成金使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）					
<p><b>背景：</b>児童虐待は、成長後の身体的・精神的健康に様々な悪影響を及ぼす。また、幼少期に児童虐待を受けたことのある親は、慢性的なうつ状態になりやすく、結果的に自分の子供に対して虐待やネグレクトを行ってしまうリスクが高い。こういった児童虐待の世代間連鎖を引き起こすメカニズムの一つとして、親の心理的側面や親の不適切な養育行動、社会的孤立や家族機能不全などといった社会的側面、子どもの精神発達の遅れなどが考えられている。このような世代間に渡る児童虐待の連鎖を断ち切るには、どの程度虐待は連鎖するか実態を把握し、さらには虐待を連鎖させるリスク因子の同定と、虐待の連鎖を断ち切る保護的因子の解明が必要である。本研究では、リスク要因と保護的因子の解明のため、2つの研究を行った。【研究1】虐待の世代間連鎖がどの程度でおこりうるのかを検証する。ひとつとして、親の妊娠期の飲酒行動という不適切な養育行動がどの程度子どもの精神発達に影響を及ぼすかを検証する。【研究2】虐待や子どもの精神発達に関する保護的因子の一つとして、家族を取り巻く地域の結束が、子どもの精神発達にどの程度影響を与えるか検証する。</p> <p><b>方法：</b>東京都その周辺に居住する家族をランダムサンプリングし、家族とその子どもの社会的因子や健康に関する情報を集めた J-SHINE（まちと家族の健康調査）データを使用して解析を行った。サンプルは 18 歳以下の子供を持つ家族を使用した。</p> <p><b>【研究1】</b> 暴露因子である妊娠中の飲酒状況は、それぞれの子供に対して測定した。アウトカムは、子どもの行動チェックリスト（Child and Behavioral Check List, CBCL）を使用し、それぞれの子供に対し、子どもの精神発達状態を評価した。解析は兄弟同士の暴露とアウトカムのそれぞれの差を比較する Fixed Effect Model を使用した。Fixed Effect Model を使用することで、遺伝要因や環境要因などの交絡因子を除外することができる。<b>結果：</b>妊娠期の少量から中等量の飲酒は子どもの不安障害（<math>\beta=1.54</math>, 95%CI=0.26, 2.82）、内的行動障害（<math>\beta=2.73</math>, 95%CI=0.87, 4.60）、子どもの全体的精神発達（<math>\beta=2.34</math>, 95%CI=-0.24, 4.92）に有意に影響を与えた。飲酒の子供の精神発達への影響には男女差は見られなかった。</p> <p><b>結論：</b>妊娠期の少量から中等量の飲酒は、遺伝的要因や環境要因を除外しても、子どもの不安障害、内的行動障害、全体的精神発達に影響を与える。</p> <p><b>【研究2】</b> 暴露因子は、親が評価する地域の結束力(Collective Efficacy)を測定した。アウトカムはCBCL を使用した。2010年と2012年に測定した Collective Efficacy と CBCL の変化の差をとり、その関連を検証する Fixed Effect Model を使用した。このモデルを使用することで、個人要因レベルの交絡因子を除外することができる。<b>結果：</b>親の地域社会への信頼は、子どもの全体的精神発達を改善し（<math>\beta= -0.22</math>, 95% CI: -0.37, -0.001, effect size <math>d= -0.03</math>）、地域の社会統制があると親が感じていることは、子どもの外的行動障害を改善する（<math>\beta= -0.16</math>, 95% CI:-0.30 to -0.03 <math>d= -0.02</math>）。</p> <p><b>結論：</b>地域の結束力を強めることは、子どもの精神発達を改善することが示唆された。</p> <p><b>【全体の結論】</b>二つの研究により、子どもの精神発達に対し、妊娠中の少量から中等量の飲酒は有意に悪影響を与え、親が地域の結束力があると感じていることは、有意に良い影響を与えた。虐待の世代間連鎖を予防するためには、妊娠中から親に適切な養育行動を教育し、地域ぐるみで子供を見守る事が重要であることが示唆された。</p>					
助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合は URL を記載すること。）					
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)		
市川 佳世子	Ichikawa K, Fujiwara T, Kawachi I. Prenatal alcohol exposure and child psychosocial development: a sibling fixed-effects analysis	SLLS: Society for longitudinal and life course studies	2015年10月18-22日 Dublin Ireland, poster presentation		